

自ら学ぶ意欲を育成するための学習行動に関する調査研究

— 中学生の学習理解度と学習行動との相関関係の分析を通して —

長期研修員 平井 智久

現状と課題

勉強に向かう中学生の実態 !!

H24「全国学力・学習状況調査」 群馬県			
質問内容	小学6年	中学3年	小 ⇒ 中
国語の勉強は好き	64%	58%	-6%
算数・数学の勉強は好き	70%	51%	-19%
理科の勉強は好き	85%	70%	-15%

国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) 2011			
質問内容	小学4年	中学2年	小 ⇒ 中
算数・数学の勉強が好き	66%	39%	-27%
理科の勉強が好き	83%	53%	-30%
算数・数学の勉強が楽しい	73%	48%	-25%
理科の勉強が楽しい	90%	63%	-27%



勉強を好きに
させるにはどうすれ
ばいいのかなあ...

中学生になると
勉強が好き・楽しい
という気持ちが低下
していくなあ



そこで

研究の背景

先行研究より

学ぶ意欲は「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」が循環しながら育っていく。

自ら学ぶ意欲のプロセスモデル

欲求・動機

学習行動

認知・感情

筑波大学教授 櫻井 茂男 氏 (2010年)

「学習行動」に着目すると

意欲が具体的に表れる6つの学習行動

学習行動の6気筒エンジン

自発学習

自ら進んで学習に取り組んだり、計画を立てて学習したりする行動。

深い思考

問題の解決法を複数考えたり、仮説や考えを吟味したりする行動。

挑戦行動

今よりも少し難しい問題や課題に挑戦する行動。

情報収集

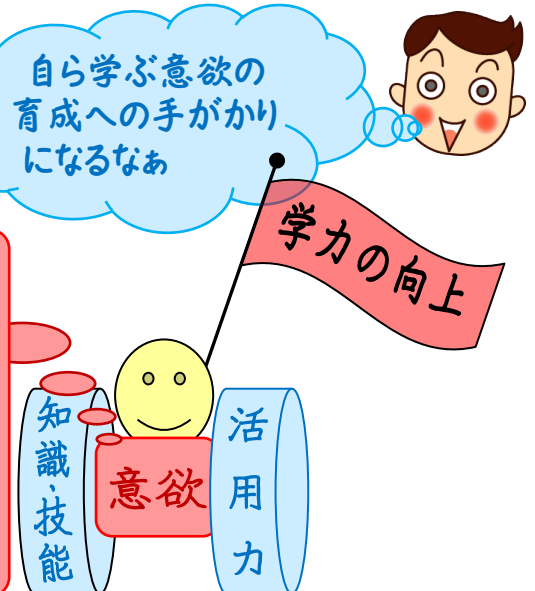
興味・関心のある情報を集めたり、必要な情報を取捨選択したりする行動。

独立達成

できるだけ自分一人の力で問題を解決しようとする行動。

協同学習

友達と協力して問題を解決する行動。



調査研究の目的

学習行動の実現度や学習意欲が高まる場面を明らかにし、学習の理解度に応じて子どもたちの学習行動を効果的に実現させ、学習意欲を高めるためのかかわり方について、授業改善の手だてを提言する。

調査の結果と考察

I 学習行動に関する調査

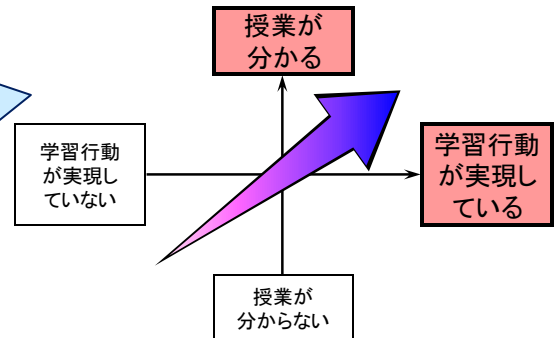
○調査対象校：群馬県公立中学校 22校
○調査対象者：中学2年生 1,122名 標本抽出
有効回答数 945名
○調査方法：質問紙調査

① 理解度と学習行動との関係

学習行動の
実現度と学習
理解度との間
には正の相関
関係がある。

学習理解度と
6つの学習行
動との関係を
調査した結果、
正の相関があ
ることが明ら
かになった。

学習理解度と学習行動との相関を表す概念図



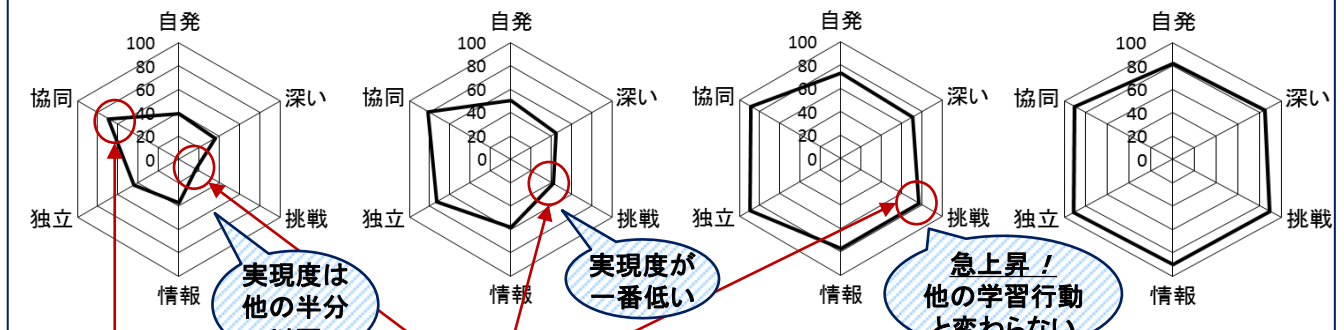
② 理解度別の学習行動

・分からないところが多い
・ほとんど分からない

・分かるところと
分からないところが半々

・だいたい分かる

・よく分かる



実現度は
他の半分
以下

実現度が
一番低い

急上昇！
他の学習行動
と変わらない

特に多い

協同学習を手が
かりに学習意欲
を喚起できる。

ここに「着目」

挑戦行動の実現が、
授業が分かることへ
向けての突破口。

理解度の向上
にともない、
挑戦行動の実
現度が最も増
加している。

それぞれの学習
行動が実現してい
ると、それにとも
なって授業の理解
度も増加している。

③ 理解度へ与える影響

挑戦行動

独立達成

授業が分かる

学習理解度が向上していく際、6つの学習行動のうちどの学習行動が影響を与えているかを調査した結果「挑戦行動」と「独立行動」の実現度が最も影響を与えていることが明らかになった。

「挑戦行動」と「独立達成」が
理解度へ影響を与える！

○授業がだいたい分かる段階以上においては、挑戦行動の実現が大きな手だてになっていく。
○最終的には、独立達成の実現度が必要になっていく。

④ 理解度別 学習行動同士の相関関係

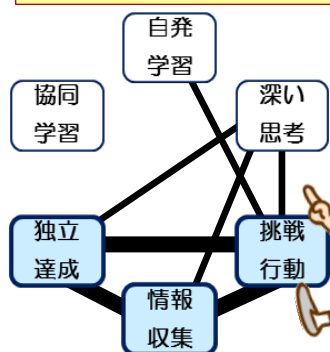
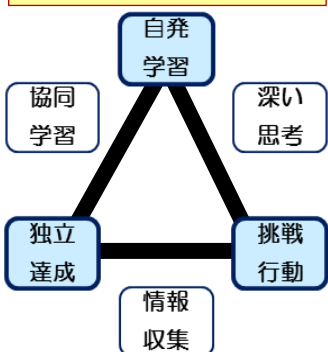
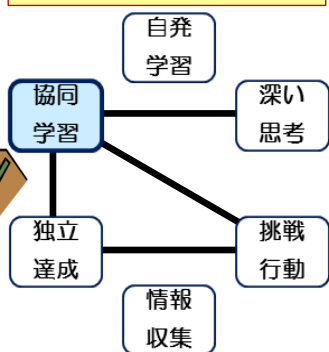
【理解度の変化に応じた学習行動同士の相関関係】

『**相関がある**』
『**やや相関がある**』

分からない → 分かる
と分からないが半々

分かる
と分からないが半々 → だいたい
分かる

だいたい
分かる → 分かる



協同学習を手がかりに、関連する学習行動の実現度を向上させていく。

自発学習と挑戦行動と独立達成の三つの行動を関連させていく。

挑戦行動を手がかりに、関連する多くの学習行動の実現度を向上させていく。

学習行動
同士が関連

相乗効果

それぞれの学
習行動の実現
度が向上

さらに

学習の理解
度も向上

Ⅱ 学習意欲に関する調査

学習意欲が高まる場面

ランキング！

「中学2年生に聞きました」

【総合ランキング】

順位	意欲が高まる場面	人(%)
1位	努力したことが良い結果に結び付いたとき	512人(60%)
2位	授業が分かりやすいとき	504人(59%)
3位	先生に自分のがんばりが認められたとき	391人(46%)
4位	友達に負けたくないと思ったとき	389人(46%)
5位	課題が簡単とき	368人(43%)
6位	家の人に自分のがんばりが認められたとき	349人(41%)

【理解度別の特徴】

【分かる】

自力で解決できる、少しむずかしい課題のとき
学習のめあてやゴールがはっきりしているとき
友達に負けたくないと思ったとき

【だいたい分かる】

授業中、活躍できたとき

【分かる と分からないが半々】

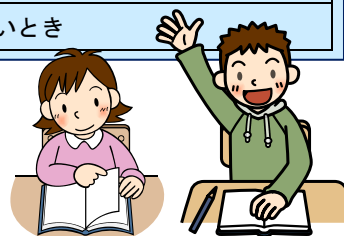
【分からない】

課題が簡単とき
授業が分かりやすいとき

○成功体験（努力したことが目標達成に結び付くなど）によって、学ぶ意欲が向上していく。

○多くの生徒が「分かりやすい授業」を望んでいる。

○「簡単な課題」「やや難しい課題」など、学習の理解度に応じて、学ぶ意欲が高まる場面が異なる。



◆ 自ら学ぶ意欲を育成するために

◆ 全体への手だて

- 授業がだいたい分かる段階以上においては、挑戦行動の実現が大きな手だてになっていく。
(方法) 生徒の実態よりもやや難しい課題に挑戦させる場面を設定する。
- 協同学習を効果的に行うことが有効な手だてになっていく。
(方法) 協同学習の前後に1人で考える場面を設定するなど、協同学習の仕方を工夫する。
- 努力したことが良い結果に結び付くようにしていく。
(方法) 適切な質や量の学習課題に取り組みさせることで、成功体験を体感させ、達成感や成就感を育む。
- 分かりやすい授業を行っていく。
(方法) 日頃から基礎・基本を十分理解させ、生徒が分かる授業に努める。
- 教師や家族が生徒の頑張りを認めていく。
(方法) 生徒一人一人に賞賛や励ましの言葉がけをする。



◆ 学習理解度に応じた手だて

- ・ 難しい課題に挑戦させていく。
- ・ 自力で課題を解決させていく。
- ・ 様々な方法で自ら調べる機会をもって学習させていく。
- ・ 友達と切磋琢磨する場面を設定していく。
- ・ 学習のめあてやゴールをはっきり示していく。

特に有効な
対 象

理解度高い

- ・ 自力で解決できる少し難しい課題に挑戦させていく。
- ・ 自分一人で課題が解決できるように徐々に仕向けていく。
- ・ 授業中に活躍できる場면을意図的に設定していく。

理解度半々

- ・ 授業の単元や学習内容によって、ペア学習やグループ学習などの協同学習を効果的にやっていく。
- ・ 基本的な事項を十分理解させる分かりやすい授業を展開していく。
- ・ 生徒の実態を把握し、適切な質や量の学習課題に取り組みさせていく。

理解度低い

学習理解度に応じた学習行動に着目して

